

## I . 合格体験記より (通信Pコースを受講 (10カ月))

### ① スケジュールリング

- ・ 仕事や子供の行事の繁忙期を踏まえ、大まかなスケジュールを立てる
- ・ 教材発送や通学講座のスケジュールをペースメーカーに
- ・ 2週間～4週間くらいのスパンで、大体のゴールを決める  
(一日毎の細かい予定は決めず、上記期間内で調整する)

### ② 「テキスト読み」を基本に

- ・ 理解中心の勉強を進めるため、「テキスト読み」に重みを置く
  - イ 通読 (大まかな法の体系を理解する。分からない場所は事前にチェックしておく)
  - ロ 過去問突合せ (重点出題箇所を把握する)
  - ハ CDを聞く
  - ニ テキストを「精読」する
  - ホ 過去問、確認テストを解く
  - ヘ 解けないところを中心に、テキストを読む

- ・ 情報は全てテキストに一元化 (講義内容、苦手な過去問)
- ・ 板書ノートのコピーを貼り付け

☆ テキストさえ持ち歩けば、勉強ができる状態に！

### ③ 過去問等、問題の解き方

#### ・ 必ず、問題の「論点」を書き出すトレーニングをする

- ・ 回数をこなすことよりも、丁寧に書き出すことを続けることが、実力アップに繋がる
- ・ 論点を見つけることができるようになると、問題を解くペースが速くなる
- ・ 自分の言葉で書き出すと、選択式対策にもつながる
- ・ 問題を解く時は、「時間」を意識し、短時間で正誤を見つけられるようにする

### ④ 暗記は表中心に

- ・ テキスト読みを重点に理解する勉強を続けていると、暗記項目が少なくて済む
- ・ 暗記は表を使って、視覚・比較で覚える  
(板書ノート、横断整理ゼミのテキストは知識の整理にオススメ)

### ⑤ 時間の確保の仕方

- ・ スキマ時間<sup>も</sup>使って効果的に勉強する。寄せ集めると、時間は意外に確保できる。  
家事の合間にCD、通勤時間や昼食時にテキスト読み、電車の待ち時間に一問一答、早朝に問題演習等・・・
- ・ 休日は午前中をうまく使う。リズムを崩さない。

## ⑥ 最後に・・・

地道な努力こそが、回り道に見えるようで合格への一番の近道であり、「最後まで頑張った」という気持ちこそが、本試験当日自分を支えてくれる最大の武器になります。

☆ 模試について

- ・模試はできれば会場受験し、緊張感を体験するとともに、時間配分ペースを掴むことに利用する。  
一科目 20分～25分ペースを意識した。
- ・科目の順番を試す。私の場合、比較的得意な労災 or 雇用から始め、緊張感がほぐれてきたら労基に戻る。
- ・分からない問題は潔く飛ばす。難問に惑わされず、基本問題で確実な得点を狙う。(選択も同様)
- ・後から戻れるように、分からない問の問題用紙の角を折っておく。
- ・ページをまたがる問題に注意。「○」なのか「×」なのか、問のところにチェックする。

## Ⅱ．条文順過去問題集の取組み方

①連番による取組み、②末尾番号による取組み、③科目間の横断的取組みなど

②  
↓

① ⇒

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
61	62	63	64	65	66	67	68	69	70
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

## Ⅲ．選択式対策

1. 日々の学習では

①科目ごとの出題傾向をつかむこと

- ・長いフレーズ（労基・安衛，国年）
- ・通達等（労基・安衛，労災）
- ・数字（雇用，健保，国年，厚年）
- ・給付の名称（雇用）
- ・沿革（国年，社一）

②法改正は要注意！

③択一式で出題された箇所から出題されることがある

④総則，雑則については，8月に目通しの時間を

2. 選択式問題への取組み方

『問題文の主旨をつかむこと』⇒何をテーマにしているのか

